

平成28年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション(第2回)

ノロウイルスによる食中毒・ 感染症対策を考えるシンポジウム

開催結果概要



28.10.25

県民くらしの安全課

1 開催概要

| | |
|--------------|--|
| 目的 | <p>本県のノロウイルスによる食中毒は、毎年、発生件数が一番多い食中毒となっており、改めて食品の衛生管理及び施設の感染症対策の徹底が求められています。</p> <p>今回、地域住民、事業者、顧客等と日常的に接する地域の食品安全に関わる方々等を対象に、ノロウイルスによる健康被害について、基礎知識や具体的対策等を学んでいただき、食品衛生についての正しい知識の普及とともに、食中毒の発生、更には、施設における感染拡大を防止するため、シンポジウムを開催したものです。</p> |
| 日時・会場 | <p>平成28年10月25日(火) 13:30～16:10</p> <p>いわて県民情報交流センター「アイーナ」7階 小田島組☆ほ～る</p> |
| 参加者 | <p>約130名</p> |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none">◆講演Ⅰ「ノロウイルスによる食中毒・感染症対策について」 ＜講師＞ 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏◆講演Ⅱ「岩手県のノロウイルス食中毒発生状況等について」 ＜講師＞ 岩手県環境生活部県民くらしの安全課 松舘 宏樹◆意見交換・質疑 ＜アドバイザー＞ 講演講師 |

2 講演Ⅰ

「ノロウイルスによる食中毒・感染症対策について」

講師 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏

内容 ノロウイルス感染症・食中毒発生状況、予防法（手洗い、掃除・洗浄、
用便の行動・心構え・対策）、下痢時・嘔吐時の対応、汚物処理等につ
いて、最新の知見を基にわかりやすく解説いただきました。



3 質疑・意見交換

参加者から事前に寄せられた質問等のほか、会場の質問・意見に対し、講師等に解説していただきました。

☆アドバイザー 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏
岩手県環境生活部県民くらしの安全課主査 松館 宏樹



◆ 質疑・意見交換

1 給食を作る人の中で、家族の方がノロウイルスにかかった場合、どのような対応が一番良いですか。（保育園）

⇒ リスクを考えれば、休んでいただくことに越したことはないが、働く人にとっては相当な負担になり、正しく申告してもらえなくなることも考えられる。個人的には、家族がノロウイルスに感染した場合には、出勤してかまわないと話をしている。しかし、当然、感染している場合もあるし、感染はしていないが、家族のケアなどでその後に感染する場合もある。そのようなことを考えると、いつも以上に手洗いをしっかりと行うことや可能であれば食品の加熱後の取り扱いを避けるなど、食中毒に繋がるおそれのある業務は控える等として対応することが一般的と思われる。

2 事前に回避するための心掛けや注意点などがあったら知りたい。
（福祉施設）

⇒ ノロウイルス予防について知識を職場で共有することが大切である。また、嘔吐による汚染が起こることを想定して、処理が速やかにまた確実に行える環境を整備しておくことが重要である。例えば、衣服のスペアを必ず準備しておくこと、次亜塩素酸ナトリウムが使える素材、汚染があった時に汚染物を取り除きやすく、また汚染した部位だけを取り除くことができる環境を整備するなどである。毛が深い絨毯などは、汚染物を取り除くのが難しいので望ましくない。

◆ 質疑・意見交換

3 感染症が発症した場合、保護者への伝え方がとても難しく、家庭でのケアの大切さをどのように伝えていったら良いか悩んでいます。（保育園）

⇒ 県民くらしの安全課は、感染症を直接担当する課ではないことから、参考として聞いていただきたい。

保育園・幼稚園の感染症予防には2つの観点があると思っている。1つは、子どもの体調管理をしていただく、そして、施設を集団として見た場合の集団としての感染拡大の予防の2点が非常に重要なポイントである。

質問は、家庭でのケアの大切さの伝え方が難しいということと思われる。1つは、感染症流行期に入る前に感染症対策の重要性を保護者に説明する機会（保護者会など）を作って、感染症対策に取り組んでいることの説明が重要となると考える。それから、子どもが感染症にかかった場合、子どもから広がるため、その子どもが悪者にならないようにしていただきたい。最初の感染者が悪者にならないような考え方が重要であると思う。また、保育園は、病気の子どもを預ける場所ではないということを認識していくこと。子どもが病気になった時に親が看病することが子どもにとっても大事であること。職場で具合の悪い子どもがいる場合は休暇を取得して、子どもの看病ができるような体制づくりも大事であるとする。

◆ 質疑・意見交換

4 幼稚園にいる時にノロウイルスの症状（嘔吐・下痢）が見られた時の対応手順を詳しく知りたい。（幼稚園）

⇒ 本日の説明内容をトータルに考えてマニュアルを作っていただくのが良いと考える。

汚染物の処理法に加え、作業者のこと、嘔吐のあった子どものこと、汚染のあった物（衣服など）のことなどについてまとめる。一般的な感染防具（マスク・手袋・前掛けなど）は事前に準備し、作業者自身が感染しないようにしなければならない。症状のある方はケースによるが、顔や手、口の中、衣服、環境の汚染が想定される。どこに汚染があって、どこが一番リスクが高いか。すべてをカバーすることはできないので、汚染があったところを確実に把握するようにして、それにあつた適切な対応を採る必要がある。当然、親御さんへの連絡も必要である。そして、例えば衣服が汚染することを事前に想定し、替えの衣服は準備しておくとうよい。環境が汚染した場合は、汚染区域をまず設定して、危険な場所を明確にする。その上で、消毒する。消毒後も時間をかけて閉鎖した状態を維持することが望ましい。その他の園児については、手洗い等はしっかりと行う。しばらくの間は感染リスクがあることを想定して、できるだけ細かに健康観察することが必要である。また、マニュアルのトレーニングも重要である。

◆ 質疑・意見交換

5 高齢社会の時代に於いて、食中毒の発生に成り易い年齢で主として口から入る食料品等を選択する必要性が考えられます。ならば、健康体で有る事が重要で食中毒感染症対策の前に予防出来る方法を知りたい。（行政（保健所以外））

⇒ 健康な体であるということは重要であり、バランスの良い食事を摂って、自分自身の抵抗力を高めることは、ウイルスに感染しないためにも、また、症状を悪化させないためにも極めて大切です。ノロウイルスだけではなく、肉、魚介類、野菜などにはノロウイルスだけでなく、病原体に汚染されているリスクがあるので、加熱して食べることを心掛けることも大切である。また、流動食は、できるだけ避け、しっかり噛んで食べることを心がけることも重要と考える。

◆質疑・意見交換

6 先日、新聞報道等で静岡県環境衛生科学研究所で紅茶成分にノロウイルスの消毒作用があると報道された。安易に考えると、例えば紅茶でうがいをしたり、紅茶を飲めば、ノロウイルスの発症を抑えられるイメージになってしまう。静岡県の研究で知っていることがあれば御教示願いたい。紅茶成分の消毒剤の話がニュースで取り上げられているが、消毒剤の利用ということになるのか、食品として使用することで予防ができるということになるのか、分かっていることがあれば御教示いただきたい。

⇒ いわゆる食品の成分が、ノロウイルスに対して不活化効果があるとの報告は、静岡県以外にも幾つかあり、そのような成分を消毒剤として使用し市販されているものもある。消毒剤に使用する場合には、実験室の試験で有効か無効かを評価することは一般的には容易であり、市販化は行いやすい。ただし、ノロウイルスの場合は培養できず、代替ウイルスの評価試験であることを理解しておく必要がある。一方、食事として摂取し、それが感染予防に役立つかということに関して評価を行うことは一般的に難しい。静岡県が紅茶成分に関して食品として摂取した場合の有効性を示すデータをお持ちかは存じ上げませんが、一般的には当該物質を摂取し続ける集団が対照集団(当該物質を摂取しない)と比較して、発症率が統計学的に有意に少ないなどのデータを示す必要がある。そのようなデータがあるのであれば、食品として販売されるかも知れない。

(補足)

インターネット等による情報では、静岡県環境衛生科学研究所が発見した物質(紅茶由来成分で、ポリフェノール的一种である「テアフラビン類」)は、手洗いの消毒薬として開発が進められているようです。

◆質疑・意見交換

7 ふき取り検査について、例えば食品製造工場やレストランなどの施設の中で、ふき取り検査をする場合、従業員の数にもよるとは思うが、何箇所くらいふき取り検査をすれば良いか。

⇒ 基本的には、ふき取り検査を何箇所実施しても防ぐことはできないということが前提としてある。一般論として、日頃の衛生的な環境を保っていれば保っているほど、ノロウイルスに汚染された場合、適切に対応できると思われる。その意味ではATP簡易検査も有効で、検査箇所は多いに越したことはない。しかし、例えば10箇所検査するのか、3箇所検査するのか、など具体的な数については、施設の規模や汚染の起こしやすさ、コスト等の問題もあり、正直お答えが難しい。ノロウイルスの場合は、手指からの汚染が多いので、手指が触れる箇所を中心に検査すれば、手洗いの効果も判定できるので、いいかも知れない。クリーンな環境を保つことがノロウイルスの汚染のリスクを下げることに繋がるので、それがわかるような回数を実施していただくのがよろしいと思う。

【県民くらしの安全課】

コストとの兼ね合いはやはりあると思うが、場所については、汚染されやすい場所を中心に実施するのが良いと思われる。ノロウイルスに限らず、一般生菌や大腸菌などもふき取り検査を実施しているところもあるが、既存のデータを活用して、汚れが目立つところを入れていただければいいと思う。継続して実施して問題ないところは少し数を減らし、その代り心配な所を増やすのが良いと考える。

◆ 質疑・意見交換

8 手袋の着用で安心はできない。事前の十分な手洗いと適正な着用が大切ということだが、仕出し弁当による大規模なノロウイルス食中毒事件は、手袋を着用しているにもかかわらず事件が発生している状況にあった。つまり、手袋だけでは安心できないということだが、具体的な事例で、例えばどんな汚染経路で手袋をしていたが食中毒事件に繋がってしまったのか、どのようなケースが考えられるのか教えていただきたい。

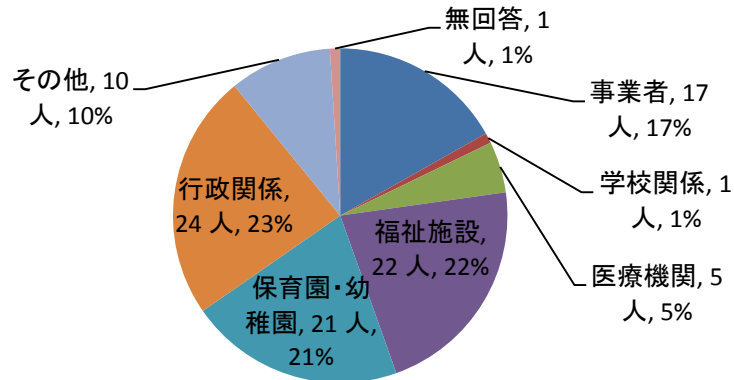
⇒ 食中毒の調査では、具体的な汚染経路は不明な事例が多いが、トイレが汚染源になるケースは少なくないと思われる。トイレに行くときには手袋を外すので、可能性としては、手指に着いたウイルスが手洗いが不十分のまま手袋を着用し、手袋表面を汚染する場合、また、手指に付着したウイルスが作業着に汚染し、作業着から手袋が継続的に汚染した可能性がある事例などを聞いている。

9 ノロウイルスの検査について、ノロウイルスにかかってしまった方が職場復帰する場合に、PCRでノロウイルスが陽性反応であった場合、どれぐらいの期間を見れば良いか。

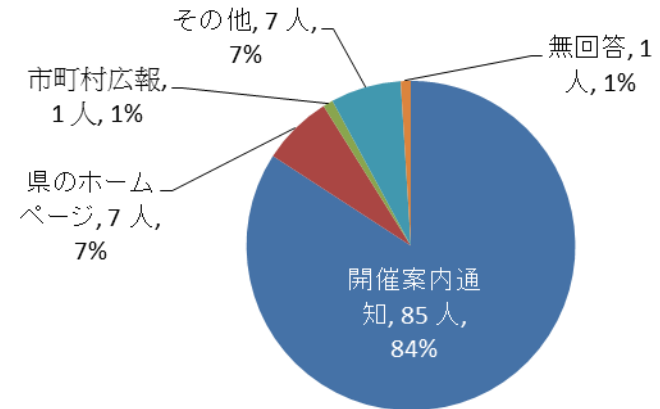
⇒ 検査する時期の話と思いますが、大手の食品関連企業の話しを幾つか聞く限りにおいては、1週間くらいというのが多いように思われます。早めに検査をして、早く復帰させてあげたいというのもあると思うが、早いと陽性になりやすいので、結局検査回数が増えてしまうことになる。

アンケート結果

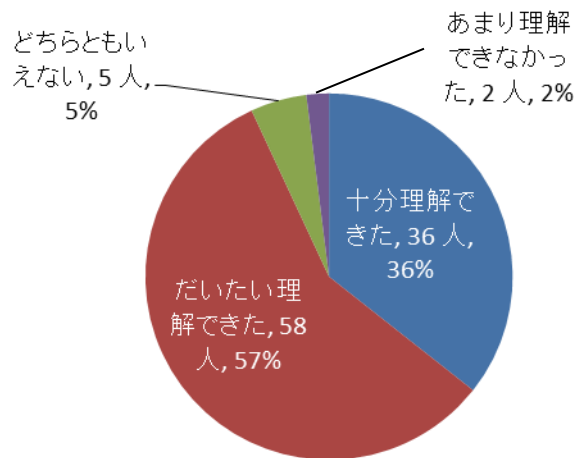
回答者の属性



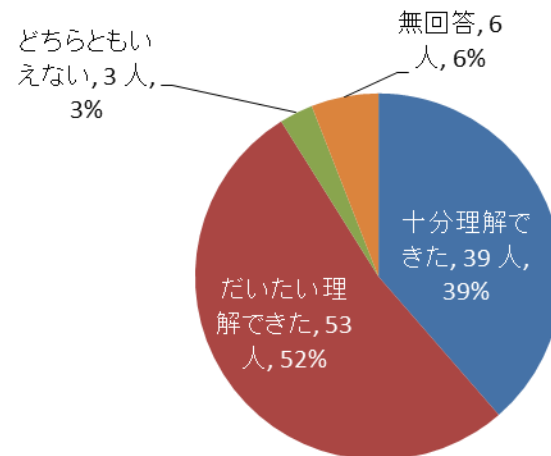
開催を知ったきっかけ



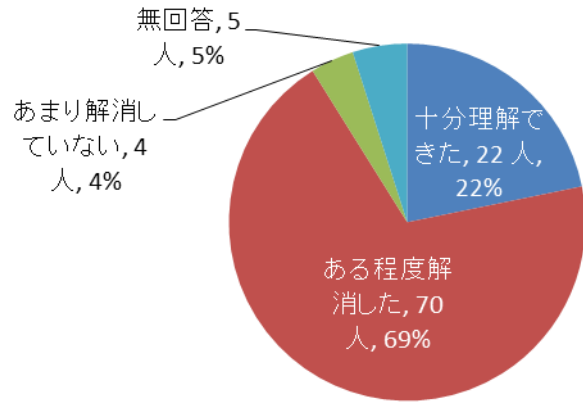
講演 I の内容



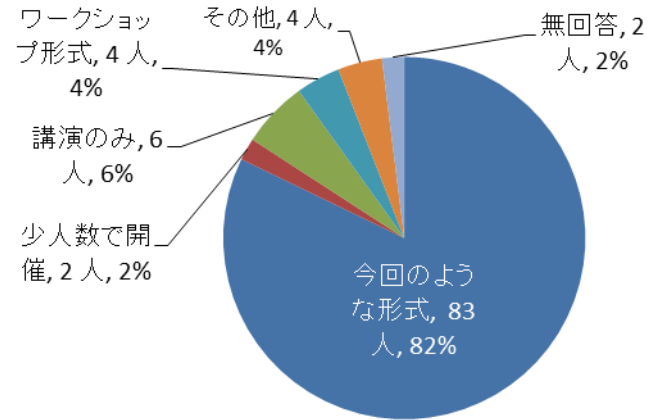
講演 II の内容



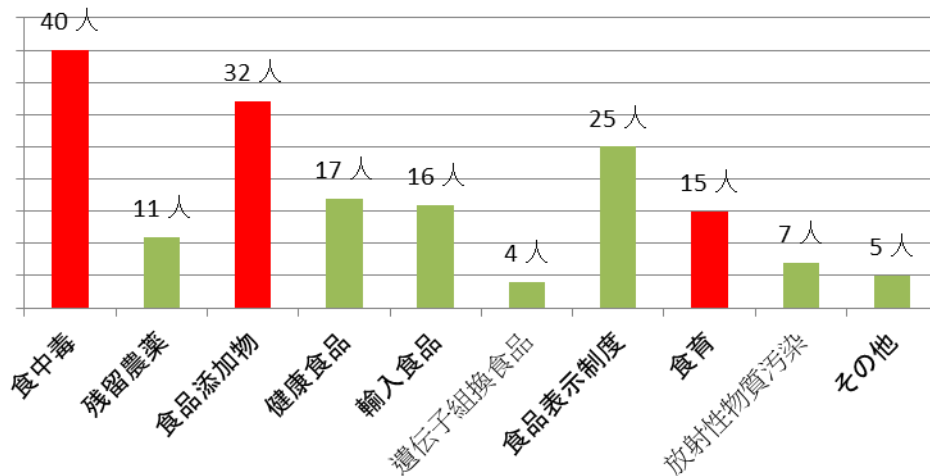
疑問の解消



今後の開催方法



今後取り上げてほしい話題



シンポジウム開催後の参加者からの主なご意見

- ◆事前質問は講演の中での説明も多いため、講演終了後の質問票の回収でもよいと思いました。
- ◆事例をあげてほしい。
- ◆HPで調べる以外の情報(研究結果など)を知ることができ、大変有意義だった。
- ◆県からコピーしても良いお知らせやマニュアルのようなチラシか綴りが欲しい。自分だけでは勉強できないところを読み返したり周りに周知したい。
- ◆リーフレットや掲示用のポスターなどがほしい。付けてもらうと良かった。資料の文字、カラーが薄く読みづらかった。後から活用出切る資料だったので、残念。
- ◆事後処理の方法(手順)について詳しく知りたかったです。
- ◆とても聞きやすかった。すごく分かりやすかった。
- ◆もう少し具体的な発生後の対応マニュアルなど聞きたかった。(ノロウイルスが発生したらどのように届け出するのか、どのような指導を受けるのか、施設なので厨房が使えない間の食事提供についての具体案など)
- ◆ノロウイルスなど感染症は、毎年少しずつ変化しているので、毎年このように情報や予防策、消毒の仕方などを聞くことができ、職場である保育園で改めて予防に心がけることができます。ありがとうございました。
- ◆メモできるテーブルがあるとより良いと思いました。
- ◆先生に質問するだけではあまり楽しくない。行政に対する一般の人の要望などが知りたかった。